

**約束、預言、残された者[レムナント]、回復**

聖書：エレミヤ 25:11, 29:10-11, 14, 30:1-3, 10-11, 16-19,  
31:1-9, 11-13, 33:6

- I. 神はイスラエルの子たちを選び、彼らを召会の予表としてのご自身の民としました——ローマ 9:11-13, 使徒 7:38 :
- A. イスラエルの子たちは神の選ばれた民として、召会の最も偉大な、団体の予表です——I コリント 10:1-11。
  - B. わたしたちがこの予表の中で見ることができるのは、召会が神によって選ばれ贖われて、キリストとその霊を命の供給として享受し、神の住まいを建造して、キリストをその分け前として受け継ぎ、墮落し捕らえられて、回復され、キリストの来臨を待ち望んでいるということです。
- II. エホバは、イスラエルの捕囚の民を帰らせて、彼らの地に連れ戻すことを約束しました——エレミヤ 16:15, 30:1-3, 10-11, 16-19, 31:1-9, 11-13 :
- A. 「わたしはあなたがたについて、わたしが考えている考えをよく知っていると、エホバは告げられる。その考えは、災いのためではなく平安についてであり、あなたがたに後の結果と希望を与えるものである」——エレミヤ 29:11。
  - B. 「わたしは永遠の愛をもってあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたを、慈愛をもって引き寄せてきた」——エレミヤ 31:3。
  - C. 「わたしは、あなたがたの捕囚の民を帰らせ、あなたがたをすべての諸国民から、あなたがたを追いやったすべての所から集めると、エホバは告げられる。わたしはあなたがたを、そこから捕らえ移した元の所に連れ戻す」——エレミヤ 29:14。
  - D. 「イスラエルの処女よ、わたしはあなたを再び建てる。そしてあなたは建てられる。再び、あなたはタンバリンをもって自分を飾り、喜び楽しむ者たちの踊りの中に出て行く」——エレミヤ 31:4。
  - E. 「彼らは来て、シオンの高嶺<sup>たかね</sup>で歌い、エホバの良きものに向かって流れ出る。……彼らの魂は潤った園のようになり、彼らはもはやしぼむことはない」——エレミヤ 31:12。
  - F. 「わたしは彼らの嘆きを喜びに変え、彼らを慰め、悲しみに代えて歓喜させる」——エレミヤ 31:13。
- III. エレミヤは、バビロンでのイスラエルの捕囚が七十年間になることを予言しました——エレミヤ 25:11 :

- A. 七十年についての言葉は、エレミヤにとって慰めとなり、彼の国と民についての、また宮と都についてのみじめな状況がわずか七十年しか続かないという保証を彼に与えました——エレミヤ 29:10. ゼカリヤ 7:5。
- B. 神は民を捕囚に渡したように、彼らを連れ戻します。それは捕囚のようではなく、凱旋<sup>がいせん</sup>の戦士のようにです——歴代下 36:21-23。
- C. ダニエルは、イスラエルの捕囚の七十年に関するエレミヤ書第 25 章 11 節から 12 節と第 29 章 10 節から 14 節の予言を理解していたので、自分の顔を「主なる神に向けて求め、……祈り」しました——ダニエル 9:2-3:
1. ダニエルは地上での神の同労者として、聖書から神のみこころを理解し、聖書にしたがって神のみこころのために祈りました。
  2. ダニエルは、神の意図がエルサレムの再建のためにイスラエルの子たちをイスラエルの地に連れ戻すことであったのを認識していました。こういうわけで、彼はそのために祈りました。イスラエルの子たちのエルサレムへの帰還は、神がダニエルの祈りを成就することでした。
- IV. エホバは、ご自身の羊の群れの残された者[レムナント]を、ご自身が追いやった地から集め、彼らの牧場に連れ戻し、彼らが繁殖し増殖すると言いました——エレミヤ 23:3:
- A. 神は七十年の捕囚の後に、入って来て、イスラエルの子たちを召し、バビロンから聖地に帰らせました——エレミヤ 25:11:
1. 神がご自身の民を召して、ご自身の選ばれた地に戻って来させようとした時、応答した者はほとんどいませんでした。大多数は捕囚の中にとどまりました。
  2. 少数の者だけが、選ばれた地に戻って来ました。エルサレムに帰還して、宮を再建した者たちは、神の民の残された者[レムナント]でした——エズラ 1:3. 2:1-67。
  3. 神は、ご自身の民がバビロンでの七十年の捕囚の後に、エルサレムに帰還することを約束しました(エレミヤ 25:11. 29:10)。エズラ記とネヘミヤ記において、残された者[レムナント]はこの約束にしたがって帰還しました。
- B. わたしたちは今日、主の回復の中で、神の民の残された者[レムナント]であって、非常に多くの真の信者たちが散らされて捕囚の中にとどまっている間も、神の当初の意図に戻って来ました——詩 126:1-4:
1. わたしたちはキリストのからだの肢体であって、一の当初の立場に戻って来ました。そして、わたしたちは神の残された者[レムナント]として、

ここに立っています——申 12:5。

2. 大多数のクリスチャンは、捕囚の中にとどまっています。少数の残された者[レムナント]だけが、神の建造のための正当な立場に帰還しました——申 12:11. 16:2. 詩 132:13-14。
- C. バビロンからエルサレムへのイスラエルの子たちの帰還は、キリストが来るための道を用意しました——ミカ 5:2. マタイ 2:4-6. ルカ 2:4-7:
1. 主が一回目に来られることは、神の民がバビロンでの捕囚から聖地に帰還することにかかっています:
    - a. ミカ書第 5 章 2 節の予言によれば、キリストはベツレヘムで生まれることになっていました。
    - b. この予言が成就されるために、神の民は聖地にいなければなりませんでした——マタイ 2:4-6. ルカ 2:4-7。
    - c. 帰還した捕囚の残された者[レムナント]は、神によって用いられた手段であって、宮を再建し、キリストが一回目に来ることをもたらしました——ミカ 5:2。
    - d. 残された者[レムナント]の聖地への帰還がなければ、キリストが肉体と成ることを通して、地上に来るための何の道もなかったでしょう——ルカ 1:35. 2:4-7。
  2. 同様に、キリストが二回目に来ることは、ご自身の新約の信者たちの残された者[レムナント]が、バビロンでの捕囚、すなわち、墮落したキリスト教から、一の唯一の立場に帰還して、神の霊の家である召会を建造することにかかっています——エペソ 2:21-22. 啓 2:1. I テモテ 3:15. I ペテロ 2:5:
    - a. 主は、ご自身の民の残された者[レムナント]が、バビロン捕囚から出て来て召会の正当な立場に帰還することによって、ご自身の必要に応じるようにと召しています——啓 18:4. イザヤ 52:11. エレミヤ 50:8. 51:6, 9, 45。
    - b. 主の意図は、キリスト教全体を復興することではなく、ご自身の民の残された者[レムナント]を召すことです。彼らは進んで代価を払って、彼に従って行き、彼の定められた御旨を完成して、からだの一部分として建造されます——マタイ 16:18. 18:17. エペソ 1:22-23. 2:21-22. 4:16. 啓 1:11. 22:16。
- V. エホバは、イスラエルの子たちに、回復をもたらすと言いました——エレミヤ 30:17 (快復、[英語訳は recovery (回復)]). 33:6:

- A. エホバは、エルサレムの町に、快復といやしをもたらすことを約束しました——エレミヤ 33:6。
- B. エホバは、満ちあふれる平安と真実を彼らに示すということと、彼らのご自身に向かって犯したすべての罪科から彼らを清め、彼らのご自身に向かって犯し、ご自身に向かって背いたすべての罪科を赦すということとを言いました——エレミヤ 33:6-8。
- C. エホバは、エルサレムがすべての諸国民の前で、ご自身にとって楽しみの名と賛美と栄光となることを、さらに約束しました——エレミヤ 33:9。
- VI. イスラエルの子たちが捕囚から帰還することは、召会の回復を予表しています——エズラ 1:3-11. ネヘミヤ 2:11, 17:
- A. わたしたちが召会の回復について語るときに意味するものは、もともとそこにあったものが失われ、損なわれてしまったので、今、そのものを当初の状態に戻す必要があるということです——マタイ 16:18. 18:17。
- B. 召会は、何世紀ものその歴史を通して、墮落してしまっただけで、神の当初の意図にしたがって回復される必要があります——I コリント 1:2. 12:27. ローマ 12:4-5. 16:1, 4-5. 啓 1:11. 22:16。
- C. イスラエルの子たちが回復されることが意味したのは、彼らがバビロンからエルサレムに連れ戻されるということでした。召会の回復は、バビロンによって表徴される、捕囚の分裂的な立場からの帰還と関係があります——詩 126:1-4. 133:1。
- D. イスラエルの子たちは、バビロンに持って行かれていた神の宮のすべての器と共に、神の定められた唯一の立場であるエルサレムに戻って来ました——歴代下 36:18. エズラ 5:14. 6:5:
1. エルサレムは、神の民が神を礼拝するための中心であり、この唯一の中心が神の民の一を保ちました。こういうわけで、旧約の神の民は、神によって定められた唯一の立場であるエルサレムに連れ戻される必要がありました——申 12:11. 16:2. 26:2。
  2. 銀と金のこれらの器は、キリストの豊富と、キリストに対する経験のさまざまな面を表徴しています——エペソ 3:8。
  3. 今日のバビロンは、神の民を捕囚にただけではなく、神の宮からすべての豊富を奪って来ました。主は今、ご自身の忠信な民をバビロンから召し出して、彼らを正常な召会生活に連れ戻したいだけでなく、失われてきたキリストのさまざまな面すべてを回復したいのです——エペソ 3:17-19. コロサイ 1:15-20. 2:16-17. 3:4。

- E. 召会の回復はまた、エルサレムの神の宮、神の家の再建によって、またエルサレムの都の再建によって予表されています——エズラ 1:3. ネヘミヤ 2:11, 17. 詩 26:8. 36:8-9. 46:1, 5. 47:2, 6-8:
1. 宮、すなわち、神の臨在の場所は保護を必要としました。都の城壁は宮の防衛でした。
  2. わたしたちは新約の家と都の間の関係を理解するために、召会がキリストの拡大、またキリストの増し加わりであることを認識する必要があります——ヨハネ 3:29-30. エペソ 4:13. コロサイ 2:19:
    - a. キリストの拡大の第一段階は、家としての召会であって、一緒にされてキリストの増し加わりとなるべきすべての信者たちから成っています——エペソ 2:21-22。
    - b. キリストの拡大の第二段階は、都としての召会です。家としての召会は、拡大して、都としての召会とならなければなりません——マタイ 5:14. 啓 3:7, 12. 21:9-10。
    - c. 家また都としての召会を建造することは、神の永遠の定められた御旨の中心です——エペソ 2:21-22. I テモテ 3:15. 啓 21:2-3。
  3. もし神の民が大いなるバビロンから召会生活へと回復されることがなければ、キリストには二回目に来ることを遂行する道はないでしょう——啓 1:7:
    - a. こういうわけで、主は終わりの時代に、召会を回復する働きをしているのです——啓 1:11. 3:7-10. 22:16. I コリント 12:27. 1:2。
    - b. この回復は、キリストの再来のための用意を整えること、またその基礎となります——啓 1:7. 3:11. 19:7-9. 22:7, 12, 20。